

平成27年10月15日

日本女性会議2015倉敷に参加して

藤本 芳博

## 1.はじめに

2015年10月9日～10月10日にかけて日本女性会議2015が岡山県倉敷市で開催されました。

事務局の強い希望もあり、勉強の為参加しました。

初日9日、私を含めて市職員2名、市内婦人会(文化協会)2名、審議委員1名の計6名

午前8時4分発のぞみ12号乗り込み、倉敷(岡山経由)に向け出発しました。

発車1分前やっと全員揃うハプニングがありました……笑い

ピンクの旗とピンクのトレーナーで統一されたスタッフ、ボランティアの出迎えを受け、倉敷駅に到着  
受付開始迄時間があったので、倉敷の有名な美観地区で昼食をとり、会場の倉敷市民会館へ徒歩で  
むかいました。受付を済ませてアトラクションが始まっていた会場へ、満員状態だったので、  
後方の席を確保し、全国から集った約2000人(10%程度男性)による開会式に参加しました。

## 2.基調報告

内閣官房審議官 池永氏による男女共同参画の現状、必要性、政府の取組と成果、地域別女性の  
活躍状況の報告がありました。

その中の課題として、女性の政治参画が著しく低いこと、管理的職業従事者に占める女性割合が  
国際的にみて低いこと等報告がありました。女性活躍については、女性の就業希望者が300万人  
で我が国最大の潜在力であり、その力が企業等の経営効果をもたらす事例、その効果を支援する法律  
(企業の事業主行動計画の開示等)の制定など政府が取り組んでいる現状の報告もありました。  
最後に結婚、出産について夫の育児時間が長いほど、第2子の出産率が高い傾向がある指摘があり、  
男性の長時間労働を少なくする必要性があると特に思いました。

## 3.記念講演

最初に NHKアナウンサー竹内 陶子氏が登壇(TVで見るとより若く見えた)

紅白歌合戦の総合司会を務めた時の苦労話、3人の子育ての話、さすがアナウンサー

あっという間の40分間、次に夫で 文化人類学者の東京工業大学教授上田紀行氏が登壇、仏教にも  
造詣が深く『パツとしない私が「これじゃ終われない」と思った時のこと』という演題で講演されました。

その話の中で「自分を優秀と自覚しますか?」「自分に価値があると思えますか?」という問いに対して  
対象が男子学生の場合、最初の質問の結果は日本15%、欧米70～90%、次の質問の結果は  
日本34%、欧米約90%(注:韓国70%)

世界屈指の経済的発展を遂げた、何不自由のない日本人男子学生の現在の結果をどう考えるべきか。

この豊かな日本で「生きる意味」が持てないのはどうしてなのか？

この「パツとしない普通の人間」を、女性の持っている能力を生かしたケアの論理で絆を深める

プロセスが大事なこと。そのプロセスが人間の本当の幸せを見け、女性の輝く社会、日本を変える

力になるという講演内容に感銘を受けました。

午後16時30分JRで岡山のホテルへ、6名で近くのレストランで夕食、交流1日目終了

#### 4. 3分科会

2日目朝5時30分起床し、1人で1時間ほど周辺散歩、朝食後JRで倉敷へ駅から送迎のバスで

倉敷芸文館へ9時過ぎ受付を済ませパネルディスカッション テーマは

地域で育む子育て環境 ～すべての子ども みんなで支え見守ろう～

福山市立大教授 八重樫氏の司会で倉敷市中学校教師の岩城氏から「父親の育児休業について」

の報告、内容は9年前3番目の女の子が生まれて6か月後、奥さんの産休が終わった2006年4月から

上司(校長)の理解と奥さんの「やってみたら」という言葉がきっかけで取得

午前8時から午後6時まで(奥さんの勤務時間)1人で子育て。 散歩、買い物に出かけると

「すごいですね!!」、「いいですね!!」等周囲の人から褒め言葉ばかりだったそうです。

岩城氏は育休をとってよかった事を次のように報告され 今後 容易に父親の育児休暇を取得できるよう

語り継ぎたいとの報告がありました。

- ①平日の町の様子が分かった。
- ②近所の人達との関係の広がりがあった。
- ③子連れの父親にはみんな親切。
- ④子供達との時間が取れた。 等々

次に、新見公立短期大学 助教授の三好氏が「にいみ子育てカレッジ」について報告がありました。

週5日午前10時～午後4時まで0歳からの子供を通してパパ、ママが参加できる「にこたん交流広場」

におけるスタッフ(学生)との交流の様子、親が学んでゆく様子など興味深いお話がありました。

又、商店街の空き店舗を利用した「出張広場」では地域と大学との協力で子育てを支援していく

報告もありました。

最後に 幸重社会福祉士事務所代表の幸重氏の子供の貧困対策事業(分会7のテーマと重複)

「子供の貧困対策センターあすのば」の活動報告がありました。

放課後一人で過ごすしかない貧困家庭の子供達を集めて、夕食をとったり、宿題をしたりする

夜間の高齢者デイサービス施設を利用した「子供食堂」づくりや長期休暇(夏休み等)中

お寺で宿泊しながら自由研究などボランティアと一緒に見守る「寺子屋プロジェクト」など地域の協力がなしではできない活動報告がありました。

最後の質疑応答は時間が足りないほど、充実した分科会でした。

## 5.特別報告、記念シンポジウム

昼食後、アトラクションを経てUN Women日本事務所長 福嶋氏の特別報告がありました

2015年4月にアジア地域で唯一開設され、ジェンダー平等の為の活動方針など講演されました。

詳しくはインターネット検索等をお願いします。

記念シンポジウムはコーディネーターに岡山大学副学長 沖 陽子氏 パネリストに光畑 由佳氏

(有限会社 モーハウス 代表取締役)、渥美 由喜氏(内閣府少子化社会対策大綱を踏まえた

結婚・子育て支援の推進に関する検討会 座長代理で株式会社東レ経営研究所勤務)、

倉敷市長 伊東香織氏によって行われました。

沖氏は岡山大学の女性研究者雇用システム(WTT)、学内保育所等研究支援事業、女子中高生

に向けたサイエンストーク、オープンキャンパスの実施等報告があり女性教員在職比率が15%(平成26年)

に上がった報告がありました。

光畑氏は自分の体験から社会と子育てをつなぐ環境づくりの為製作した授乳服の紹介、

ご自分の会社で実践している「子連れワークスタイル」等報告がありました。

渥美氏は6Kライフからの学び(会社員、子育て、家事、看護、介護、子供会)のテーマで

ご自身の経験を報告されました。特にワークライフバランス(老若男女が支え合える社会)が大切なこと

**ワ**かちあい            **ラ**くあり、くあり            **パ**トンリレー

又、男女共同参画は企業や自治体の経営戦略、地域戦略として不可欠だという考えが心に残りました。

倉敷市長は子育て、高齢者対策、誰もが暮らしやすく働きやすい市のまちづくりを熱く語られました。

## 6.おわりに

平成11年に男女共同参画社会基本法が制定され16年が過ぎ、イクメン、イクボスなどの言葉が

かなり受け入れられる社会になってきたと思われませんが、まだまだ「男は仕事、女性は家庭」という考え方を

持っている人が私の周りにも見受けられます。でも、若い世代(20、30歳代)では、育児の分担、家事の分担

を自然にやっている家庭が多くみられます。

少子、高齢化が進んでゆく今後は、女性が活躍する社会なしには語れません。それを支えるためには

地域(高齢者を含む)一体となった子育て支援、マタニティハラスメント対策と様々な施策が必要ですが、

結びに、コーディネーターの沖 陽子氏が「男だから、女だから言わないで済む社会」が

男女共同参画社会の目標ではないかという言葉が強く印象に残った「日本女性会議2015 倉敷」でした。